



# 甲西陸運

グループ企業全体で「エネルギーの地産地消による地域貢献」を目指す甲西陸運（湖南市）。各地の物流センターの屋根に設置した太陽光パネルで発電事業を展開するほか、バイオディーゼル燃料の精製事業などにも取り組む。甲斐切稔社長（64）は「地元の物流センターはすべて湖南市にあり、地域で働ける場を提供したい」と地元重視の姿勢を貫いている。

同社の創業は1957年、青木善政会長（85）が個人経営で小荷物配送業を始めたことにさかのぼる。65年に甲西近陸運輸を設立、69年に甲西陸運と社名変更し、翌年に倉庫事業をスタートした。事業は現在、運送、倉庫、照明器具の製造、クリーンエネルギー事業の4本柱だ。

搬送資材は、住宅建材や照明器具



グループ企業全体で地域貢献に取り組み、地元重視の姿勢を貫く甲西陸運の甲斐切稔社長。湖南市の甲西陸運本社で

具、文房具、家具、食品など多岐に及ぶ。昨年、トレーラー5台を導入し、大型・中型のウイング車、冷凍・冷蔵車など80台を保有。物流センターは湖南市に7カ所あるほか、取引先の関係で愛知県に2カ所、埼玉県に1カ所を構える。

「運送業界は近年、ドライバーの減少により1回の輸送で物資を大量に運ぶ流れになっており、長距離輸送がトレーラー化している」と甲斐切社長。ただ、「事故などの危険がある運送事業より、倉庫事業の方が安定している」として、搬送資材と連動した倉庫事業を意識的に伸ばしているという。

その新たな展開として2017年11月、本社近くに倉庫を借りて、乗用車のタイヤストックサービスを開始した。冬用タイヤの履き替えなどで、タイヤの保管が必要な乗



2017年3月に竣工した本社と配送センター。配送センターの屋根には太陽光発電用のパネルが設置されている—甲西陸運提供

業の設立で事業の幅が広がった。KOH DENは14年、バッテリー式フォークリフトを活用し非常時に電源装置として使用できるシステム「KEEPS」を発売。最近では、工場や物流倉庫、建設・工事現場、店舗などで活用されるクラウド型監視カメラシステムの開発・販売を始めるなど、物流目線で新商品を開発しビジネスチャンスをつかもうとしている。

甲西陸運は一昨年3月、本社の新社屋と隣接する配送センターを完成させた。甲斐切社長は「この業界は労働集約型産業なので、職場環境への配慮は欠かせない」と考える。本社はLED照明器具と省エネ型の空調設備を採用し、玄関のロビーには同社の太陽光発電量が示されるモニターを設置。配送センター（3階建て、延べ床面積約1万平方メートル）は垂直搬

## エネルギー 地産地消を

用車販売のディーラー複数社から現在、約5200本を預かっている。サービス開始にあたり、タイヤの預かり状況や集配の依頼などがインターネットを介して利用できる専用のクラウドシステムも開発し、利便性の向上につなげている。

また、照明器具の製造事業は当初、取引先が生産した照明器具を保管するだけだったが、取引先の要請で、1999年から一般家庭用照明器具の組み立て加工業務を開始。省エネLEDや植物育成用ランプなども製造する。

甲斐切社長は「運送事業は排ガス問題もあり、環境意識は高めなければいけない」と話し、環境に配慮した事業展開を進めている。湖南物流センターを「甲西クリーンエネルギーセンター」と位置づけ、13年に物流倉庫の屋根に4200枚のソーラーパネルを装着して太陽光発電事業を開始。現在、

グループ企業も含め8カ所の施設の屋根にパネルを設置し、年間発電量の合計は約359万2300キロワット。一般家庭の約1000世帯分の使用量になるという。

さらに、クリーンエネルギーセンターの敷地内で、グループ企業の「甲西ロジスティクス」が、食品メーカーから引き取った食用廃油をバイオプラントで精製するBDF（バイオ・ディーゼル・フェュエル）精製事業を実施。甲西運送のトラックやフォークリフトの燃料として活用している。

現在、グループ企業は6社。甲西陸運の事業拡大に伴い、グループ企業が次々に設立された。不動産流通事業を手がける甲西開発（76年設立）▽人材派遣のアクティブ湖南（03年）▽工場・倉庫内の検査や梱包、出荷業務などを請け負う甲西湖南（05年設立）▽取引先の食品メーカーの荷役・配送業務部門が本社から独立した甲西

ロジスティクス（07年設立）▽LEDなどのランプや省エネ照明器具の販売・コンサルティング業務が中心のKOH DEN（12年設立）▽物流センターや社員寮などの不動産を管理する甲西コーポレーション（14年設立）がある。

「現状維持は事業の衰退につながる」と甲斐切社長。グループ企

甲西陸運 1965年1月設立。従業員は約280人。所在地は湖南市柑子袋278。グループ企業は6社で従業員数は約500人。甲西陸運は社員の親睦活動にも力を入れており、社員旅行と納涼祭を毎年交互に開催。社員旅行は春～秋の半年間に日帰り、1泊2日、2泊3日の旅行を計4回実施して多くの社員が参加しやすくなっている。甲斐切稔社長は「働くことは、自立して自

### 社員の親睦活動に力

分の夢を実現するための手段だ」と指摘。「甲西陸運の仕事は在庫管理の事務職や配車の手配、物流倉庫での仕分け業務など幅広い。就職を考える際、運送業の仕事はドライバーだけというイメージにとらわれないでほしい」と話している。



送機を完備するなど機械化・省力化を進めている。

大きく変化するビジネス環境を見据え、各社の力を合わせて全体で取り組む甲西グループ。中核の甲西陸運を率いる甲斐切社長は「さまざまな変化に対応できる人材が求められる」と強調している。

■次回は4月22日